



国民の森林・国有林

平成30年7月10日
(2018年)

No.1757

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話:050-3160-6600(代表)

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

農林水産大臣賞を受賞 九州北部豪雨災害対応の職員が 優良職員等表彰を授与する

6月11日、平成30年度優良職員等表彰が行われ、九州北部豪雨災害対応職員（九州森林管理局及び全国の森林管理局から参集した職員）が農林水産大臣賞を受賞しました。

表彰式は、農林水産省大臣室において行われ、当局からは治山課長が代表して出席、齋藤農林水産大臣より表彰状が授与されました。

今回の受賞は、九州北部豪雨災害の発生直後から、災害対策

踏まえた福岡県朝倉市における民有林直轄治山事業の着手などの取組が、地域住民の安全・安心の確保に大きく貢献したとして評価され、今回の受賞となったものです。

齋藤農林水産大臣（中央） 赤星治山課長（右）



（担当：治山課）

なお、表彰式には、「全国の森林管理局から参集した職員」の代表として、北海道森林管理局から山地災害緊急展開チームの一員として、民有林林道の被害調査に携わった職員も一緒に表彰されました。

NTT西日本の取組は、

ICTを活用した鳥獣害対策の勉強会を開催

九州には約43万頭、目撃個体数の約3倍のシカがあるとされており、新植地だけではなく成林地においてもシカの食害による下層植生の消失や表土の流出などが顕著となっています。こうした中、効率的な捕獲方法を検討するため、6月21日、ICTを活用した鳥獣害対策の実証に取り組んでいるNTT西日本熊本支店から前田仁支店長をはじめ4名の方に来ていただき、お話を聞く機会を得ました。

最初に、九州森林管理局から国有林におけるシカ被害の現状や被害対策を説明し、続いてNTT西日本からは、新鳥獣害対策ソリューションとして、既存の鳥獣害対策製品を工夫・活用し、鳥獣の出現状況やわなによる捕獲状況などを画像付き情報として送信するシステムにより見える化を図り、生息実態に即した効果的ななわな設置・管理に結び付けているという取組の紹介がありました。

主として耕作地に被害を及ぼすイノシシを想定したものであったため、出席者からは、シカが生息している山間地でも無線が届くのか、携帯電話のサービスエリア外ではどうなるのか、寒冷地でも大丈夫かなどの質問が出されました。

前田支店長からは、国有林のフィールドを活用して実証実験を積み重ねることによって、技術的には対応できるかもしれないとの発言がありました。

九州森林管理局としては、今後も情報交換をするなどして、効率的なシカ被害対策に役立てていきたいと考えています。

（担当：保全課）



鳥獣害対策システム勉強会の様子



林野庁職員定期表彰式を開催

☆永年勤続30年13人 20年5人を農林水産大臣表彰



式辞を述べる原田局長

6月14日、平成30年度林野庁職員定期表彰式が開かれ、永年勤続30年13人と20年5人を表彰しました。

式典は、当局大会議室において永年勤続30年受賞者、及び局幹部出席のもと執り行われました。

式典では、はじめに原田隆行九州森林管理局長より「この度、永年勤続表彰を受賞されます皆様には、三十有余年の永きにわたり、国有林野事業の各般の事務・事業に真摯に取り組み、その努力・労苦に対し敬意と感謝の意を表するとともに、支えてこられたご家族の皆様にも感謝の意を表する。

今後、皆様方には、それぞれ

の部署の中核として、経験と知識を発揮され、活躍されることを期待するとともに、健康に留意され職場や家庭において充実した日々を送られることを願う」との式辞がありました。

次に、永年勤続表彰状の授与が行われ、受賞者全員に農林水産大臣表彰状が伝達されました。

その後、林野庁長官の祝辞を両角実総務企画部長が代読、続いて祝電披露が行われました。

最後に、宮崎北部森林管理署の藤川晃久技官が「受賞者とし



代表して答辞を述べる藤川技官

てこの式典に参列できたことは、この上ない荣誉であります。今森林・林業はかつてない変革の時期を迎えており、林業の成長産業化、森林・林業再生への貢献に寄与するとともに、本日のご激励を糧に、国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、更に全力を傾けて参ります」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典は終わりました。

今年度の受賞者は次のとおり
農林水産大臣賞（勤続30年）

- 高本宗昭（福岡署）
- 山部清人（佐賀署）
- 市原増雄（長崎署）
- 藤川晃久（宮崎北部署）
- 大塚 磨（宮崎北部署）
- 原口尚也（宮崎北部署）
- 村上 学（宮崎北部署）
- 片山恵介（宮崎署）
- 金津圭介（都城支署）
- 内村芳博（都城支署）
- 石松伸二（宮崎南部署）
- 川口文明（北薩署）
- 川畑勇二（北薩署）
- 農林水産大臣賞（勤続20年）**
- 原田美千子（企画調整課）
- 藤原敬士（森林整備課）
- 園田泰夫（福岡署）
- 岩下晃之（鹿児島署）
- 稲員優次（屋久島署）

（担当：川総務課）

第1回国有林材供給調整 検討委員会を開催する

6月13日に、本年度第1回目
の「国有林材供給調整検討委員
会」を開きました。



遠藤日雄委員長を座長に検討の様子

各委員がそれぞれの専門分野
からの意見を述べ、あい、「現時
点での供給調整は要しない」と
の検討結果となりました。
各委員からの主な意見は次の
とおりです。
○原木は梅雨期や虫の影響で出
材量は落ちた感じはしているが、
問題はないと思っている。価格
については、製材工場の買い控
えの影響もあると思われ全体的
に少し下げ気味だったが、ここ
が底かなという感じ。過積載の
取締強化が運賃に影響して、原

木価格も上がるのではないかと。

○報道にもあるとおり製紙業界
は厳しい状況にある。原木価格
については、製材用、合板用は
下がり気味との話があったが、
製紙用・燃料用丸太については
全く下がる傾向がない。さらに
バイオマス発電の新規稼働など
で競争相手が増える状況で原木
集荷を強化していく必要がある
と考えている。国産チップ価格は
は据え置き状態である。

○製品の動きはまだまだ熊本
震災復興需要が中心となってい
る気がする。外材を含む輸入資
材の高騰等で軽量鉄骨を木造へ
代替する業者があったり、輸入
材の2×4を国産材による在来
工法へ変更する検討等の動きも
ある。現状の林業の採算性等を
考えると、千載一遇のチャンス
で原木価格を底上げするいい時
期に来ているのではないかと。

○材価は2月から下がってきて
いる。今が底で梅雨明け後に回
復するのではないかと。原木は市
売りが少なくなり直送が増えて
いる。宮崎では原木の50%くら
いは直送ではないかと。
○原木価格は今年に入り月を追

う毎に下がっている。原木は直
送が多い。最たるものが合板。
需要は年々増加し、原木争奪戦
の様相を呈している。工場新設
等で需要は益々増えるのではな
いか。今は千載一遇のチャンス、
新たな森林管理システムと我々
のノウハウを組み合わせて効果
的に取り組んでいく必要がある。
○トラックの過積載の取締が厳
しくなり、運送業界がダメージ
を受けているが、業界全体では
正すべきところは是正するほか、
再造林できる体制等をきちんと
作っていくなどしないと新たな
森林管理システムの取組などに
ついて国民の理解を得られない。
大径材の利用も考えていかないと
中目材中心の需要では資源の
少ない年齢にシフトしていくこ
とから原木の供給は難しくなる。

○再造林率が低位に留まってい
ることに加え、造林・保育の担
い手不足が生産事業にまで影響
を及ぼす状況となっている。再
造林率向上への取り組みと合わ
せ、造林とのバランスを見なが
ら伐採を進めていかななくてはな
らない。

今回の検討委員会では初めて
ウェブ中継を行い、各森林管理
署長でも検討委員会と同時に各
委員の生の声を聞くことができました。



別室にてウェブ中継の様様

※本検討委員会は、九州森林管
理局HPのキーワード「第1回
国有林材供給調整検討委員会」
からご覧になれます。
(担当地域木材情報分析官)

谷川建設の新入社員 記念植樹の実施

【長崎森林管理署】4月27日、
(株)谷川建設の平成30年度の
新入社員15名が記念植樹を行
いました。大村湾を望む国有林内
0.09ヘクタールにおいて、
ヒノキ、カエデ、ヤマザクラ約
200本を植樹しました。谷川建
設は、国産材を積極的に活用し
「安らぎと癒やしの住まい」を
提供されている会社であり、植
樹作業の経験は重要と毎年長崎
署管内において植樹活動を行っ

ています。



新入社員による植樹の様様

当日は快晴の中、鹿田純吉森
林技術指導官の指導を熱心に聴
き、初めて使うクワに悪戦苦闘
しながら植樹に取り組み、終始
笑顔で活動されました。
新入社員たちは皆、植樹した
苗木同様大きく成長されること
を願い、記念植樹を終了しまし
た。

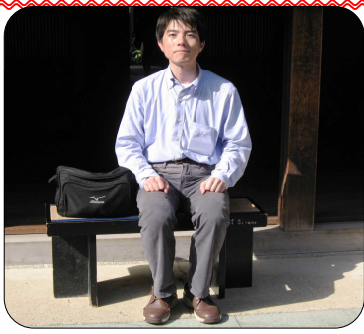
イベントで国有林を イベントで国有林を

【宮崎森林管理署】5月12日、
宮崎市「生百社運動公園」に
おいて、農林水産物の地場産品
を広く紹介する「食フェスタ三
みやざき2018」(食フェス
タ三みやざき実行委員会主催)
が開かれました。
当署からは、恒例の木工体験
(木製キーホルダー「もっくん」
表札づくり)や、クイス形式の

森林教室及びオリジナル絵はがきの配布のほか、林野庁のパンフレット（九州の国有林・入庁案内）の配布を行い、積極的に国有林のPRを行いました。

イベント当日は、快晴に恵まれ、多くの親子連れが訪れ、大人も子供も時間を忘れ木工体験等に取り組んでいました。

さらに、昨年も好評だった昆虫の切り絵（職員が即興で作成）の実演では、子供達が目を輝かせながら順番待ちするほどとなり、当署ブースは親子連れやお年寄りまで幅広い年齢層の皆さま



田中 伸之さん

今年度、国有林モニターをさせていただくことになりました。九州森林管理局の皆様께に厚くお礼申し上げます。



クイズによる森林教室の様

本イベントは、当日は勿論、企画から準備作業をとおして若手職員が主体的に行っており、一般の方々から森林管理署を身

近に感じていただけたのは勿論、若手職員にとっても貴重な体験となりました。

平成新山防災視察登山へ参加

【長崎森林管理署】5月15日、雲仙普賢岳警戒区域設定等に関する防災業務の一環として、島原市と九州大学地震火山観測センターの共催により25回目となる「平成新山防災視察登山」が行われました。

この登山の目的は、関係機関が平成新山周辺の現状を視察し、

その情報と認識を共有するためで、今回は関係機関と報道関係者を含め約70名が参加し、長崎森林管理署からも7名が参加しました。

九州大学の地震火山観測研究センターからは「観測を始めた95年には約90度あった山頂部は、現在86度と沸点以下で噴火の危険性は低下しているが、大地震による影響もあり溶岩ドームの崩壊には警戒が必要」とのコメントがありました。

平成新山の表面は溶岩が固まり、割れてできた巨石が積み重

災害支援への取り組み

平成30年6月18日（月）に発生した「大阪府北部を震源とする地震」に際し、被害を受けられた皆様、ご家族や関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、近隣地域の皆様の安全をお祈り申し上げます。

私は、森林林業の仕事に携わったことはありませんが、被災地の森林・林業の再生に向けた九州森林管理局の取組みに関心があるため応募しました。

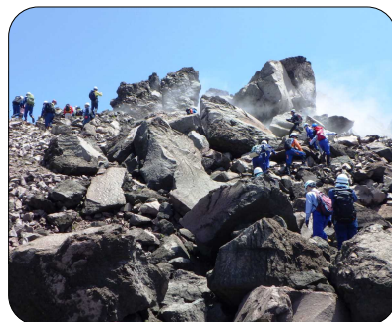
平成29年7月九州北部豪雨

により、各地で山くずれなどの甚大な被害が発生しました。防災以降、自分に何かできることはないかと考え、同年7月23日（日）から8月11日（金）にかけて、朝倉市杷木地区で災害ボランティアを行いました。活動内容は主に泥だし、家財等の搬出、家屋の片付け等といった、被災のあった状態から一日でも早く元の生活に戻すための支援活動でした。現地に行つて自分の目で見ないと分からないことが多くありました。そこで、甚



北九州市においても、平成29年7月7日（金）の豪雨により多くの被害が発生しました。

なり非常に不安定なため、慎重に安全を確認しつつの登山でしたが、事故やけがもなく参加者全員が無事下山し、防災視察登山を終えました。



水蒸気を上げる山頂の様子

大な流木被害を目の当たりにしました。当時の写真を掲載させていただきま。微力でも被災地のお役に立てたのなら良かったです。

例年、秋頃に開催される国有林モニター会議では、被災地の治山事業について意見交換を行いたい。今後も、定期的に送付いただく国有林に関する資料を拝見し、具体的な国有林野事業の取組みを知ることで、更に身近な存在として国有林を感じ、家族や友人に積極的にPRしたいと考えています。

（北九州市在住）

長崎大学の環境フィールド スクールの開催

【長崎森林管理署】5月19日、雲仙田代原レクリエーションの森の運営協議会の会長でもある「NPO法人奥雲仙の自然を守る会」中田妙子会長からの依頼を受けて、長崎大学環境フィールドスクールに講師として秋山郁男署長が出席しました。



ミヤマキリシマの植樹の様子

午前中は遊々の森（奥雲仙牧場の森）で、ミヤマキリシマやヤマモミジの植樹を行い、午後には、レクリエーションの森（田代原風致探勝林）で、ミヤマキリシマの生息状況を確認した後、環境省の雲仙自然保護官から雲仙天草国立公園の概要説明をいただき、長崎森林管理署からは森林の役割や署の業務の内容等について説明しました。説明後の質問タイムでは、国

立公園のI種やII種等の地種区分の違い、国の森林環境譲与税の用途についての質問があり、森林林業に対する興味の深さが感じられました。

これからの奥雲仙牧場の森、田代原風致探勝林が四季折々の色が楽しめる森であることを期待し、本スクールを終了しました。

「みんなで創ろう一ツ葉の森林」 実行委員会開催

【宮崎森林管理署】5月30日、当署において「みんなで創ろう一ツ葉の森林」実行委員会を開催しました（事務局＝宮崎森林管理署）

この取り組みは、先人が残した貴重な財産である「一ツ葉の森林」（民有林含む総面積830ヘクタール）を地方自治体、地域住民、民間団体等が連携して、県民の憩いの場・レクリエーションの場として利用される都市近郊の森林としての機能を確保・維持していくために、森林整備・環境整備・美化活動・小鳥とふれあう森林づくり等に取組んでいるものです。

会議では、まず事務局より昨年度の取り組みの説明と、今年度の取り組みとしては、昨年度に引き続き一斉清掃や植樹等の

活動、「森づくり祭」等を実施予定であることについて説明しました。さらに、参加団体それぞれを取り組みについても情報提供していただき意見交換を行いました。実行委員会のメンバーである日本野鳥の会宮崎県支部からは、大陸からの渡り鳥も含め80種類以上の野鳥が訪れる貴重な場所となっていることの紹介、「前浜国有林取締監視員」を委嘱している地元の檜振興会からは、地元の貴重な財産である森林を守るために協力を惜しまない等の力強い発言もありました。



取組等を説明する事務局

最後に、松食い虫被害への対策として実施している、伐倒駆除において、国内でも珍しい大型の移動式チップパーによる粉碎状況を映像で紹介し、事業への理解を深め、参加者全員が連携協力して森林づくりを進めていくことを確認し閉会しました。

林業事業体との採材等 研修の実施

【長崎森林管理署】5月30日、当署管内の間伐事業の現場で、林業事業体の株式会社長崎林業が主体となり林業生産性向上に向け、採材研修及び路網研修を実施しました。

今回の研修は、林業事業体と進める生産性向上の取り組みの一環で、午前中は株式会社伊万里木材市場から指導を受けながら、チェンソー・プロセッサの採材について曲がりによる玉切りの位置や曲がりの許容範囲の確認など実施しました。午後からは四班に別れ、森林作業道の線形について現地を踏査、検討し意見交換しました。



スズの採材検討の様子

最後に中川裕司総括森林整備官により、林業専用道からの入口の入り方や地形の考え方、効

率的な間伐のための線形等の総評をもって終了しました。これを機に事業の生産性についてさらなる意識の向上が図られるものと期待します。

国有林ボランティア 自然災害に備えて活動内容を確認

【大分森林管理署】6月8日、大分森林管理署会議室において、国有林防災ボランティアに登録されている、（一社）熊本林業士木協会の清川産業（株）の江藤伸吾取締役及び株菅厚組の田中悟電力工事課長、戸高猛主任、また、当署からは濱田辰広次長のほか6名の職員が出席して、本格的な梅雨期を迎え自然災害に備えた国有林防災ボランティア活動の内容を確認しました。



会議の趣旨を説明の様子

井孝好総括治山技術官から、

「大分地方は昨年より23日早く梅雨入りしました。本年4月11日に大分県中津市耶馬溪町で山崩れが発生、平成28年4月は、震度7を観測する地震が発生するなど、いつ、どこで自然災害が発生するかわからない状況です。これらに備えて、万全の体制を整えたい」と今回の趣旨を説明。

この活動は、当署の要請に基づき活動を行うものであり、連絡体制、安全作業の手順、情報収集の手順などを確認するとともに二次災害防止対策についても確認しました。

清川産業（株）は、当署管内の林道延長約190キロメートルを対象に13名の登録者、また、（株）菅厚組は、当署管内の林道延長約90キロメートルを対象に8名の登録者で対応することとしており、本活動を通じて地域における社会貢献に取り組みます。

地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定

【沖繩森林管理署】当署では、6月7日午前東村長と同日午後には国頭村長とそれぞれの役場庁舎において「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」を締結しました。

この協定は、それぞれが管理

する森林等の状況について情報を共有しつつ、災害発生時や地域の長期的な森林づくりについて、連携・協力を図ることを目的としています。



東村長との調印式



国頭村長との調印式

協定締結にあたり、東村の伊集盛久村長から「国有林と連携の下、長期的に健全な森林の育成を行っていくことで地域住民の安心した生活の確保が図られるよう積極的に意見交換会を行って参りたい」との挨拶。

また、国頭村の宮城久和村長からは「沖繩は台風の影響が多く、林道等の被害状況を情報共有することにより、災害時に迅速に対応できることは心強く感じる。今後、世界遺産のこともあり、これも一つの取り組みとして森林を守り育てていきたい」との挨拶がありました。

協働によるシカ被害対策ネットの設置

【熊本南部森林管理署】5月25日、「多様な活動の森」の協定を締結している「白髪岳を守る山の会」との協働で、あさぎり町にある白髪岳山頂のシカ被害による植生回復のためのネット設置を職員21名、山の会5名参加の下、行いました。

はじめに登山口において、当日の作業内容や手順等を打ち合わせた後、約1時間半の道程を既設のネットの点検等も兼ねて山頂を目指しました。

資材等については、予め山頂付近まで運搬してあったことから、作業は進めやすい状況になっており、山頂から20から30メートルほど下方に生育している樹木の保護も含めて、12メートル

四方のネットを、パッチ状に3箇所設置しました。



協働でシカネットを設置する様子

職員は、ネットの設置が初めての経験者も多く、戸惑うところもありましたが、予定した時間前には終了し、下山の途につきました。復路は、ネットの補修が必要な箇所を修繕しながらの下山とし、無事作業を終りました。

白髪岳を守る山の会とは、年に数回、協働で登山道の清掃や標識類の点検等を行っており、今後も協力して白髪岳登山道等の整備を進めていくこととしています。

ノースジャパン素材流通協同組合の調査を受け入れ

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】6月12日と13日の両日、岩手県にある

ノースジャパン素材流通協同組合からの屋久島現地調査の要請に応じて鈴木信哉理事長以下10人を受け入れて、縄文杉や安房貯木土場などを案内し当署及び保全センターの取組等の説明を行いました。

12日は川畑充郎署長と一口竜也森林技術指導官が、現在建設中の屋久島町新庁舎を案内し町担当者から屋久島地杉の特性や建築工法等の説明を受けるとともに、安房貯木土場において署の取組事項やヤクスギ土埋木の生産・販売状況等について説明しました。

13日は古市真二郎センター所長、奥村克生生態系管理指導官、一口指導官が縄文杉を案内し、世界自然遺産地域における保全管理の取組や縄文杉の樹勢回復措置等について説明しました。



建設中の屋久島町新庁舎を案内

今回の現地調査を通じて協同

組合の方々からは、屋久島の素晴らしい森林生態系や縄文杉に感動したとの感想とともに、急峻な山岳部の多い屋久島で森林管理業務を行っている職員へあの言葉等を頂きました。

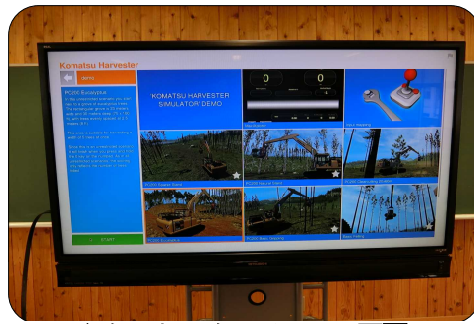
当署及び保全センターとしては、今後とも外部からの現地調査等を積極的に受け入れて、国有林野事業に対する理解を深めてもらう取組を行っていく考えです。

高性能林業機械「ハーベスタ」シミュレーター研修会

【大分西部森林管理署】平成30年6月14日、大分県日田市の県立日田林工高等学校で、ハーベスタシミュレーターの体験研修会を開催しました。

ハーベスタシミュレーターは、機械メーカーの「コマツ」が開発したもので、ハーベスタによる伐倒・造材作業を、実機のレバーをそのまま採用した操作レバーで行い、パソコンの画面を通じて何度でも疑似体験できるものです。当日は、林業科3年生の授業の一環として、17人の生徒が、コマツ林業機械事業部白井教男氏の指導のもとハーベスタの操作を体験し、伐倒や造材が安全・正確に行えるよう、画面に真剣に見入りながら、左右のレバーを操作していました。

生徒たちは、はじめこそ操作に苦戦していたものの、すぐに操作にも慣れて、機械操作への高い適応力をうかがわせていました。



シミュレーターメニュー画面

た。

シミュレーターは、レバーの操作に忠じて、ベースマシンやアタッチメントの動きが画面に映し出され、伐採すると切りくずが飛び、伐倒した木をつかんでアームを動かすと伐倒木をつかんだヘッドがゆらゆらと動くなど、リアルな映像が精緻につくられています。また、画面はコックピットからの視野と上空からの俯瞰とを自在に切り替えられ、対象物と機械の位置関係を容易に把握できるほか、造材本数や伐倒高さ、所要時間などに応じて点数で評価されるなどゲーム的に操作感覚を養うこと

もできます。掴みが甘いまま造材しようとして伐倒木を取り落としたり、ヘッドを立木に衝突させたりといった失敗も「安全に」、「機械の修理費用も要らずに」体験できるなど、シミュ



高校生による疑似体験の様子

レーターならではの利点を満喫することができました。

生徒たちには、これから我が国で展開していくスマートな林業のイメージの一端を感じてもらえたことが期待されます。また、研修会の終了に当たっては、生徒代表から研修を指導していただいたコマツ担当者に対して、丁重かつ立派な謝辞が述べられました。

当日は、高校生のほか、大分県西部振興局、同林業研究部、同林業アカデミー、林業事業体も参加して、新規従事者に対しても安全に講習することが可能

であり、実際の現場や立木、機械、好天日を確保する必要がないシミュレーターの利点を確認していました。また、研修会に先立って、当署若手職員3名もシミュレーターを体験することができました。



疑似体験中の画面

林業の成長産業化を実現する上で、多くの若者の参入がまた

れるところですが、そのためには林業が安全な産業であることが欠かせません。海外では急傾斜地であっても伐倒作業をチェーンソーからハーベスタに切り替えることにより、作業者を伐倒作業から解放し、労働災害の発生を抑制しています。シミュレーターも各地の教育訓練機関等に標準的に配備されているそうです。また、シミュレーターは逐次バージョンアップが予定されており、フォワーダのシミュレーターと連動して協調作業の訓練も行える

ほか、航空レーザーデータを活用して実際の地形と立木を再現するといった方向もバージョンアップの視野に入っているようです。今回の研修会は、当署がコマツによるハーベスタシミュレーターの開発に関する情報を得て、日頃から連携している大分県西部振興局に日田林工高校での開催を打診し、大分西部流域林業活性化センターの取組として実現することができました。また、ハーベスタについては、ICTを活用したスマート林業の確立が課題となる中、現在、森林総合研究所が中心となって、伐木・造材に併せて原木の曲がりや強度といった品質も判定・把握できるヘッドの開発や、ハーベスタが取得した丸太の生産に関するデータの活用方策の検討も進



熱心に受講する日田林工の生徒

められており、若者の参入促進のみならず、労働安全の確保、林業の生産性向上、地域の林業教育機関との連携といった様々な観点から意義を持つ研修会となったものと考えています。

今後も、国有林のネットワーを活かしながら、民国連携の取組を促進していきたいと考えています。

地域林政対談 日之影町

【宮崎北部森林管理署】6月18日、日之影町役場にて、「地域林政対談」を開催しました。

対談には日之影町役場から佐藤貢町長、宮崎県西臼杵支庁から工藤康成支庁長、ほか各機関の林務や地域振興の担当課長が出席され、当局・署から原田隆行局長、勝沼太志企画調整課長、黒木慶次郎署長が出席し、膝詰りでの話し合いがなされました。議事としては、各機関におい



日之影役場にて意見交換

る取組の情報提供が行われ、その後トピックとして、「森林環境譲与税（仮称）」も含めた「森林経営管理制度（新たな森林管理システム）」と、昨年6月に登録された「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」について率直で具体的な意見交換が行われました。

佐藤町長からは「林業で町民が暮らしている町にしていきたい」、「（エコパーク、森林セラピー等）息の長い話になるが、ソフト面の施策で町を訪れ

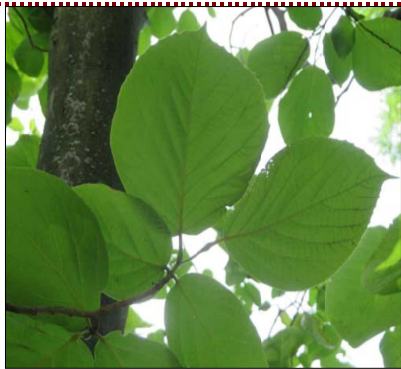
る人を増やす」等、森林・林業による町おこしへの強い思いのお話があり、原田局長からは「いろいろ連携してやっていきたい。気づく点あればいつでも宮崎北部署に気兼ねなく相談してほしい」と、話され地域連携を醸成する意義深い対談となりました。

なお、今回の対談を受けて、日之影町と宮崎北部署との間で異常箇所の確認、情報共有、災害発生時の協力等について協定を締結することになりました。



対談中の原田局長（左）と佐藤町長（右）

都会の中の緑の森
多様な植物



ハクウンボクの特徴は、円形の葉とその葉柄にあります。冬芽を葉柄が上から覆い隠すように構成され、葉痕は冬芽を取り囲んでおの字形（葉痕の種類）

128 ハクウンボク（エゴノキ科）

となっております。キハダもおなじく葉痕はO字型となっております。このように冬芽が、葉柄の中に納まっているのを「葉柄内芽」といいます。

葉は倒卵形又は広倒卵形、先は短く尾状に尖り、基部は広い楔形または円形で葉の縁には不規則な微凸牙があります。表面は深緑色、脈に沿って星状毛を散生、裏面は星状毛を密生して灰白色となっております。

同じエゴノキ科ですが、エゴノキは一つ一つの花が垂れ下がり、ハクウンボクはフサ状（ブドウ）になり下向きの花を付けています。

ます。果実も同じ状態で付け、花自体は大小の差はありますが大層よく似ています。

エゴノキ科の冬芽は、2段又は3段となっているのが特徴で、主の冬芽に付随するように副芽があり、冬芽が冬芽を負んぶしたように付いています。主の冬芽が何らかの理由で枯れたときに代わって成長します。

名前が「白雲木」で樹上に白花を満開した様子が白雲のようであることから付けられています。



7月1日から7日を国家公務員安全週間、九州森林管理局では7月と8月を蜂刺され災害防止対策強化期間です▼山に赴く際には防蜂網・防蜂手袋などの保護具の完全着用など、蜂刺され防止対策を確実に準備。最近ではマダニの刺咬から人命を脅かす災害が発生している、万が一咬まれ症状が現れた場合、速やかに近くの医療機関に直行。自分の身は自分で守るようお願いいたします▼待ちに待った4年に一度のワールドカップ ロシア大会の開幕、日本チームは予選リーグを見事突破し、決勝トーナメントへ進出。対戦は優勝候補の呼び声の高いベルギー、連日連夜のテレビ観戦がたり眠たさを堪える毎日であったが、ここは早寝早起きで万全の応援態勢「日本ガンバレ」善戦したものの結果は惜しくも敗れました、選手の皆さん感動をありがとうございました▼次回カタル大会こそ有終の美を期待しています▼もうすぐ梅雨も明け本格的な夏が到来します冷えたビールが最高な季節、みなさん暴飲暴食を控え、山や海に行ったりフレッシュして夏を元気に乗り越えましょう(か)